

自動車損害賠償保障制度を考える会



政府・与野党に陳情

齊藤国交大臣、鈴木財務大臣、額賀自動車議連会長
などに要望書を手渡す

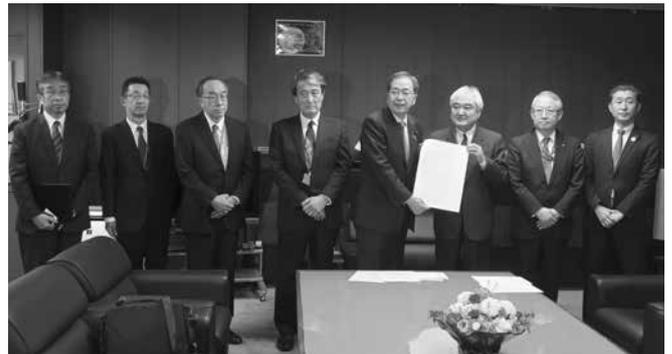
鈴木財務大臣に要望書を手渡す「考える会」メンバー。

左から山岡専務理事、横山副代表、桑山代表、鈴木財務大臣、内山田会議所会長、坂口JAF副会長、金子自動車総連会長

自

自動車損害賠償保障制度を考える会（座長＝日本大学危機管理学部・福田弥夫学部長、以下「考える会」）は11月22日に齊藤鉄夫国土交通大臣、11月25日に鈴木俊一財務大臣、額賀福志郎自動車議連会長など政府・与野党を訪ね、被害者救済対策の重要性を訴えるとともに、自賠責保険料積立金の継続的な繰戻しと繰戻額の増額を求める要望書を手渡した。要望書では、本年は財務大臣と国交大臣の間の覚書の書き換え時期であることから、返済計画（ロードマップ）の提示と繰戻額の明示を強く求めた。

一般会計からの繰戻しは、2018年度予算にて23.2億円、2019年度37.2億円（補正12.5億円）、2020年度40.3億円（補正8.3億円）、2021年度47億円と、4年連続で実現したものの、依然として約6,000億円が繰り入れられたままになっている状況。11月22日、「考える会」の福田座長は齊藤国交大臣に対し、「令和4年度（2022年度）予算での5年連続となる繰戻しと、繰戻額の増額」、さらに「年末、大臣間で締結する予定の合意では、少なくとも合意期間中における繰戻しの継続、繰戻額の目安の明示」を要望した。陳情に対し齊藤国交大臣は「交通事故の被害者の方やご家族の方が大変ご苦労されていることは承知している。各種救済事業が継続的に充実



齊藤国交大臣に要望書を手渡す「考える会」メンバー。左から山岡専務理事、赤間保険特別委員長、横山氏、桑山氏、齊藤国交大臣、福田座長、坂口氏、金子氏

していくよう、しっかりと頑張っていきたい」、「一般会計からの繰戻しは、令和4年度が2017年12月に財務大臣との間で交わした覚書の最終年度になるので、繰戻しが着実に行われるよう鈴木財務大臣としっかり協議したい」などと応じた。

11月25日の鈴木財務大臣との面会では、「考える会」の事務局代表として当会議所の内山田会長が、「令和4年度予算において、鈴木大臣に代わられても、5年連続で繰戻額も増額になること」、さらに「繰戻しに関して、中期的な目線で一刻も早く計画を立案いただき、皆さんが安心して治療、生活できるよう是非ともお願いしたい」と訴えた。それに対して鈴木大臣からは「繰戻しについては真摯に誠実

自動車安全特別会計からの一般会計繰入金に係る要望

令和3年11月22日

自動車損害賠償保障制度を考える会

自動車損害賠償保障制度は、自動車ユーザーの支払った保険料で、不幸にして交通事故の被害に遭った人たちの救済を確かなものにするための、世界に誇れる共助の仕組みです。

とりわけ、自賠責の保険料から交通事故被害者への支援を中心とする交通事故対策のために積立てられた資金は、被害者やその家族の命を支える様々な事業に用いられるが、この積立金は、特別会計から一般会計に貸し出されたまま、未だに6,013億円(令和3年度末)が返済されずにいます。

被害者救済対策の重要性、ならびに事業の持続可能性を踏まえた判断により、平成30年度予算にて23.2億円、令和元年度37.2億円(補正12.5億円)、令和2年度40.3億円(補正8.3億円)、令和3年度47億円と、4年連続で一般会計から繰戻されました。

一方で、この積立金が大きく取り崩されている状況は変わりなく、被害者救済のための事業等が安定的、持続的に行われるためには、継続的な繰戻しと繰戻額の増額が不可欠です。

交通事故死者数が統計開始以来最小の2,839名となった現在においても、重度後遺障害者数は1,700名前後で横ばいの状況が続いております。本年7月に取りまとめられた「今後の被害者救済対策のあり方に関する検討会」報告書において、介護者なき後への備えを含めた事故被害者救済の充実が提示されたことは、中長期的に問題が深刻化している事故被害者並びにその家族の状況に鑑みた対応と受け止めます。その上で、令和4年度予算における概算要求事項の着実な織り込み、並びに更なる事故防止対策、後遺障害を負われた方々の回復に向けて、なお一層の質的・量的施策の充実を期待致します。

自動車ユーザーのみならず、全ての国民が自由で安全な移動が享受できる社会を持続していくためにも、被害者救済や事故防止対策などの事業を行っている自動車損害賠償保障制度の持続可能性を高めることは大変重要であるという認識を踏まえ、令和4年度予算における繰戻額の更なる増額と併せ今後の繰戻しにおける返済計画(ロードマップ)をご提示頂きますことを強く求め、以下のとおり要望します。

1. 自動車安全特別会計(自賠責保険料積立金・剰余金)から一般会計に繰り入れられている6,013億円全額を可能な限り早期に返済いただきたい。
令和4年度予算における繰戻額は、長年積立金が大きく取り崩されてきた状況に鑑み、被害者等のニーズに応じた被害者救済事業等が安定的、継続的に将来にわたって実施されるよう、積立金を取り崩すことなく被害者救済事業等が十分に実施できるよう増額をしていただきたい。
2. 新たな大臣間合意の締結については、被害者救済事業等の安定かつ持続可能な実施に向けた返済計画を併せて明示いただきたい。少なくとも合意期間中における繰戻しの継続と毎年度の繰戻額の目安を示していただきたい。
3. 今後、交通事故の被害者が将来にわたって安心して生活することができ、被害からの回復が可能となるよう、また、交通事故による被害者の発生を少しでも減らすことができるよう、被害者救済や事故防止対策の更なる充実を図るとともに、これらの問題に関し、十分な説明責任を果たしていただきたい。

以上

に対応させていただきたい」との発言があった。

昨年はコロナ禍の中で、リモート参加となった「全国遷延性意識障害・家族の会」桑山雄次代表・横山恒副代表は、今回直接面会され、両大臣に率直に交通事故被害者の実情や思いについて、強く訴えられた。

■陳情に参加した「考える会」メンバー

(順不同、敬称略)

○福田 弥夫

日本大学危機管理学部学部長(座長)

○桑山 雄次

全国遷延性意識障害者・家族の会代表

○横山 恒

全国遷延性意識障害者・家族の会副代表

○坂口 正芳

日本自動車連盟(JAF)副会長

○金子 晃浩

全日本自動車産業労働組合総連合会会長

○赤間 立也

日本自動車会議所保険特別委員長

○山岡 正博

日本自動車会議所専務理事



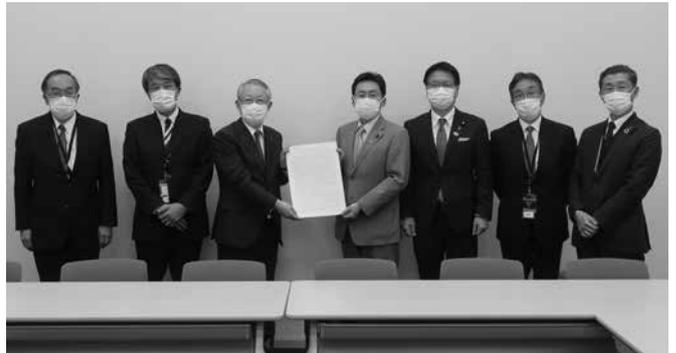
斉藤国交大臣（テーブル中央）に要請する「考える会」メンバー。奥左から福田座長、坂口氏、金子氏。手前左から桑山氏、横山氏、赤間氏、山岡専務理事



鈴木財務大臣（テーブル中央）に要請する「考える会」メンバー。左奥側から桑山氏、横山氏、金子氏。右奥側から内山田会議所会長、坂口氏、山岡専務理事



額賀自動車議連会長に要望書を手渡す「考える会」メンバー。左から金子氏、横山氏、桑山氏、額賀会長、内山田会議所会長、坂口氏、山岡専務理事



自動車総連顧問議員に要望書を手渡す「考える会」メンバー。左から横山氏、桑山氏、坂口氏、磯崎哲史参議院議員、浜口誠参議院議員、山岡専務理事、金子氏

2020年度全国自動車会議所永年勤続者表彰式 全国4会議所から7名が参加

コロナ禍により3月開催を延期／昨年に引き続きリモートで開催

日 本自動車会議所は11月9日、全国の自動車会議所職員を対象とした「2020年度全国自動車会議所永年勤続者表彰式」を、昨年に引き続きリモートで行った。同表彰式は3月に開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期。今回は、神奈川、静岡、愛知、岐阜の全国4自動車会議所をオンライン接続し、受表彰者7名全員がリモート出席した。

当会議所の内山田竹志会長もリモートで出席し、「この度、当会議所は、550万人に上る自動車産業で働く人々に『ありがとう』と感謝を伝える場を作りたいとの気持ちから、表彰制度『クルマ・社会・パートナーシップ大賞』を創設しました。日々の職場、現場をベースにしながら、自動車産業・文化の発展のため地道に活動に励まれている方々に光を当て、表彰を通じて同じような取り組みがさらに広が



表彰式の最後に受表彰者全員と関係者が記念撮影

っていく一助にしたいと思っています。地域の自動車業界で長く勤めておられる皆さまは、まさにこの賞の原点です。この機会に、改めて私から皆さまに『ありがとう』の言葉をお伝えしたいと思います」と述べ、受表彰者への感謝の気持ちを表した。

その後、表彰状が授与され、受表彰者を代表し下村理恵さん（愛知県自動車会議所）が、「この受彰を一つの節目として、また新たな気持ちで業務に励んでいきたいと思っています。今年は、コロナウイルスの